

平成23年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育活動全体の活性化による水産・海洋の将来のスペシャリストの育成</p> <p>1 専門学科としての特色を生かした学力の充実・向上及び生徒の希望進路を実現する進路指導の充実</p> <p>2 生徒の規範意識の醸成等、生徒指導の充実による安心・安全な学校づくり</p> <p>3 部活動・ボランティア活動等の充実による特別活動の活性化</p> <p>4 保護者、地域、小・中・高等学校、関係諸機関との連携等、開かれた学校づくりによる教育活動全体の活性化</p> <p>5 教職員の資質能力の向上</p>	<p>1 目指せスペシャリスト事業に取り組み、「京の貝」をテーマとして各学科・コースの専門性並びに研究活動が向上した。</p> <p>2 一人ひとりに対応した進路指導を行い、進学（大学・短大専門学校進路）を達成した。</p> <p>3 生徒からの自主申告により、問題事象が明らかになった場合もあり、昨年度より指導件数は増えたが、日々の粘り強い生徒指導や組織的な指導により、落ち着いた学校生活が営まれるようになった。</p> <p>4 レスリング・ボート・カッター部の他、ヨット・ウエイトリフティング同好会が全国の大会に参加し、部活動が年々活性化している。</p> <p>5 人権教育（教職員研修を含む）並びに国際理解教育等の研修を通して、教職員一人ひとりの意識が向上した。</p> <p>6 推薦・一般入試の現状を認識し、志願者数の増大に努めるため、より本校の魅力を発信する方策を検討する。</p>	<p>1 危機管理意識のさらなる向上並びに、安心・安全な学校生活を確立する。</p> <p>2 目指せスペシャリスト事業の完成年度に向けての教育活動の糧とする。</p> <p>3 授業研究に重点を置き、授業内容並びに教科指導力の向上を図る。</p> <p>4 早期からのきめ細かな指導を展開し、個々の生徒の希望進路を実現する。</p> <p>5 授業規律の確保と生徒指導の一層の充実を図る。</p> <p>6 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の活性化を図る。</p> <p>7 生徒並びに教職員の人権意識の向上を図る。</p> <p>8 志願者数の増大に努める。</p>

[評価の方法] 評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の指導力の向上並びに、組織力を高める。	校内外の各種研修に参加し、個々の教職員の指導力の向上を図る。	B	B ・全校体制で取り組む全水研並びに研修会を、講義から参加型にするなど工夫し、参加率を高めた。
	魅力ある学校づくりを展開する。	目指せスペシャリスト事業等を活用し、府立高校唯一の水産系専門高校として特色ある学校経営を展開する。	B	
総務企画部	広報活動の活性化を図る。	① ホームページをPDF化するとともに、4回/月以上の更新を目指す。 ② 「海洋だより」等の発行回数を20回/年以上を目指す。	A	C ・昨年度並みの出席者であった。
	P T A活動及び人権教育の充実を図る。	① P T A行事の参加者数を、昨年度比20%以上増加させる。 ② 教職員研修の実施により、人権意識を高揚させる。	D B	
教務部	授業規律の確立を図る。	① 教科担当者会議や授業状況調査により、生徒の状況把握を行う。 ② 授業規律報告用紙の活用や関係分掌との連携により、指導の徹底を図る。	B C	B ・1学期に比べかなり改善された。 ・研修会が行えなかった。 ・ミスなく円滑に運営できた。
	校務システムの円滑な導入を図る。	① 校内研修等により、各教員に校務システムの周知徹底を図る。 ② 新しい成績処理の流れを構築し、成績処理等におけるミスを防止する。	B A	
生徒指導部	進路実現を目指した生徒指導を充実・徹底する。	① 服装・頭髪・携帯電話等、公共のマナー向上についての一斉指導及び学年、クラス単位の指導を定期的・行事毎に行う。 ② 教職員の意思統一を図り、指導方法をわかりやすく統一する。	B	B ・教職員全体の目線が上がり、小さな状況で指導できる学校体制になっている。 ・部活動を行う生徒も増え、ボランティアに関しても受け入れ体制が充実してきた。
	生徒会・部活動を充実する。ボランティア活動を充実する。	① 年間通じて生徒会活動を充実させる。部活動については競技力向上と加入率向上に努める。 ② 年間通じてボランティア活動を行う。生徒会やボランティア同好会、寮生と協力して学校外の活動を充実させる。	B	

進路指導部	望ましい職業観や進路意識を育成する。	進路HR 1年生7回、2年生10回、3年9回以上実施する。	B	B	・HR指導継続中
	進路先に応じた学力や社会人基礎力を育成し、希望進路の合格(内定)につなげる。	就職補習6回と就職、小論文模試2回、面接練習6回以上実施する。	B		・左記回数実施済み
	校内外との連携を強化し、進路指導力の向上を図る。	求人開拓訪問50社と大学訪問15以上、進路研修2回と個別指導の徹底(週1回以上)	A		・会社訪問80社以上
保健部	基本的な生活習慣を確立する。	① 生活の三原則、「食事」「運動」「休養」の意識を高めさせ、健康の保持増進に努めさせる。 ② 「早寝」「早起」「朝ご飯」をスローガンにして、自己管理する能力を育成する。	B	B	・猛暑のため熱中症対策に力を入れ、重症化を防いだ。 ・1・2年生に生活指導をしたが、倦怠感を訴える生徒が減少しない。 ・教育相談を他分掌と早期にとる必要があった。
	教育相談体制の強化に努める。	生徒一人一人を把握し、その情報の共有化を図る。また、個々の課題を組織的に支援し、解決していく体制を充実させる。	C		
1年学年部	正しい習慣を身に付ける。	① 入学当初より提出物等の指導を徹底し、定期考査前の試験対策を励行することで、2学期末には期限内提出(HR関係)90%及び定期考査対策3時間/日以上を目指す。	A	A	・期限内提出82% 定期考査対策2.9時間 ・部活動定着率99%
		② 多くの生徒を部活動に参加させ、2学期末には80%以上の定着を目指す。	A		
2年学年部	全員の希望進路を設定させるために、進路指導の徹底を図る。	① 年間計画に則り、適宜資料やワークシートを提示する。 ② 進路部との連携を積極的に行う。	A B	B	・修学旅行後から進路本番と位置付けており、HR指導を徹底していく。 ・個別指導としては、やや徹底できていない面がある。
	1年次の生活指導・学習指導の成果に基づき、生徒個々の資質を向上させる。	① 保護者との連携を密にし、個々の課題を自覚させる。 ② 学科コースとの連携を一層図り、学年・学級指導を強力に進める。	B B		
3年学年部	進路希望を実現させる。	① 学習者としての集団を意識する中で、日々の授業を大切にさせ個々の課題に努力させる。 ② 資格取得を推進する。	B	B	・多くの生徒が希望通りの進路実現を果たし、進路決定後も安定した学校生活を送った。 ・資格所得に関しては教育長表彰の対象者が51名であり健闘した。
	道徳心を育み、社会的規範を遵守させると共に、学校生活を主体的に取り組ませる。	① 高校生らしい身だしなみや言葉使いを励行させる。 ② 部活動の促進を図り、学校祭を成功させる。	B A		
海洋科学科	目指せスペシャリスト事業の充実発展を目指すとともに、専門学習の充実を図る。	① イワガキを食材として活用するとともに、トリガイの殻の製造・販売を軌道に乗せる。 ② 専門系施設の訪問・見学を年8回以上実施する。	B A	C	・イワガキの食材提供実施・トリガイの殻の肥料製造・販売許可取得 ・多様な進路の実現(水産海洋系大学を基準に評価) ・86%取得
	海洋科学科生徒としての自覚を高めさせ、希望進路の達成を図る。	① 海洋科学科希望者のうち、大学進学・公務員希望者を100%とするとともに、大学進学率を90%以上とする。 ② 3年生の教育長表彰対象者を80%以上とする。	D C		
	(航海船舶コース) 目指せスペシャリスト事業に関わる取組を発展させるとともに、教員の指導力向上に努める。	京都府沿岸域における貝類の生育に適した海洋環境を解明するとともに、その結果を地域に還元する。(観測300回、生育を促進する水深の解明、生育に適した育成場の発見、漁業者への情報提供5回)	A		
海洋工学科	(海洋技術コース) 目指せスペシャリストの取組や海洋工学、作業潜水等に必要とされる知識と技術を習得させ、海のスペシャリストを育成する。	① 潜水士9名以上、レスキューダイバー16名以上の合格、関連進路先の合格、内定を70%以上をめざす。 ② 専門機関との連携により貝類の保全研究を推進するとともに、ヒトゲ駆除等にかかわる地域への貢献を目指す。	A A	A A	・潜水士合格率80%、レスキュー16名取得。 ・阿蘇海調査4回、肥料提供7回、実習中の事故やミス0

海洋資源科	(栽培環境コース) 目指せスペシャリスト事業の取組を発展させるとともに様々な魚介類の飼育技術・知識を習得し、地域に貢献できる人材を育成する。	① 貝類や魚類の飼育技術の向上を目指す。 ② 水産関連企業および関連上級学校への希望進路実現を推進する。	B B	B	・イワガキ種苗生産やトラフグ飼育に関して、技術向上の成果が見られた。 ・関連企業就職3名、関連進学3名		
	(食品経済コース) 目指せスペシャリスト指定事業を成功させ、地域産業を発展させる人材を育成する。	①関連企業への就職を推進する。 ②関連資格を取得させ、将来のスペシャリストの育成を図る。	C A	B	・関連就職6名 ・情報関係の資格を多くが取得した。		
事務部	学習環境の整備と施設・設備の安全管理の徹底に努める。	① 来校者には迅速・親切・丁寧な対応を心掛けるとともに、不審者の侵入を阻止するため、確認並びに把握については複数で行う。 ② 施設・設備の安全点検を複数で実施し、危険並びに改善箇所の早期発見・早期改修に努める。特に老朽化や塩害等によるトラブルを未然に防ぐために徹底した点検を行う。(毎月1回)	B C	B	・昨年度、事務室の窓ガラスを透明にしたことで、来校者の把握が容易になり迅速な対応ができるようになった。 ・備品調査の仕事に追われてしまい巡回体制が整わず、複数による安全点検ができなかった。今後は巡回を定例化する必要がある。 ・経費節減については、全教職員の協力のもと、7項目中5項目について節減につながった。		
	経費の節減に取り組む。	義務的経費等の7項目の支出状況を職員会議で報告し、毎月の重点項目を設定・依頼することで、更に経費の節減につながるよう全教職員に協力を求める。(毎月1回)	A				
寮務部	規則正しい生活習慣の徹底を図る。	① 服装・頭髪等、身だしなみについての指導を徹底するとともに、挨拶の励行を図る。 ② 舎室の美化および私物の整理・整頓を徹底させ、学習に集中できる環境の整備を図る。 ③ 全教職員による舎監体制で寮生の指導に臨み、寮生に対する指導について情報の共有を図る。	B B B	B	・挨拶が寮全体の雰囲気を良好にしている。年間を通して頭髪・服装についても良好であった。 ・寮生に関わる生徒指導事象について情報の共有ができた。		
		学校目標の安心、安全に追従して運航できるように努める。	① 生徒実習中は毎日、生徒、職員の体調チェックを行う。(チェック表を使用) ② 国際・国内航海実習は非常退船、集合非難操練を行う。	A A	A	・記入するよう指導して漏れも少なくなった。 ・3分と少ない時間でできた。 ・100%できた。 ・訓練記録簿を活用し、衣服のみだれ等指導した。	
			船舶職員と教員・生徒との連携を深める。	① 教職員と実習前の打ち合わせ並びに終了後の反省会を行い、今後の組み立てに考慮する。 ② 生徒とマンツーマンで指導教育を行う。			A B
研 修 計 画	生徒指導部	① 制服のTPOについて ② やる気を育てる講演会	新入生オリエンテーション合宿の中で講演会を行う。		C D	C D	・生徒部長が講演した。 ・実施できなかった。
	総務企画部	専門教育における指導力向上を図る。	① 目指せスペシャリスト事業を充実・成功させる。 ② 全国水産教育研究大会全国大会を成功させる。 ③ 新学習指導要領構築のための検討を行う。 ④ 教員研修により、人権意識高揚等、資質向上を図る。	C C C B	C	・教務部と共催した。 ・人権講演会実施した。	
	教務部	教科指導力の向上と授業改善	① 研究授業の実施と授業改善に向けての研修を行う。 ② 生徒による授業評価を実施し、その結果を各教員に還元することで授業改善の一助とする。	C	C	・従来どおり取り組んだが、参加者は多くなかった。	
		成績処理等について	校務システムについて各教員に周知徹底を図る。	C	C	・資料を配布し対応した。	

研 修 計 画	進路 指導部	① コミュニケーション能力 の育成 ② 高大接続について	① 若者を取り巻く学校や社会情勢を踏まえ、コミュニケーション能力を向上させる方法やその指導について研修を深める。 ② 大学での研究や就職指導を通じて、キャリア教育の在り方を学ぶとともに、高校と大学それぞれの社会的役割について学ぶ。	B A	B	・PTAと協同で研修会を実施した。 ・大学教授を招いて研究協議を実施した。
	海洋 科学科	目指せスペシャリスト事業 事業を充実させる。	① アラゴナイトの性質を有するトリガイの殻の有効利用を進めるために、ホタテガイの殻の活用方法について研修を行う。 ② 海洋高校版「トリガイ育成マニュアル」を完成させる。	B B	B	・トリガイ肥料の販売が許可された。 ・研修会を実施した。
	海洋 工学科	(航海船舶コース) 目指せスペシャリスト事業 に関わる専門知識の習得と教 員の資質向上を図る。	各教員の新規チャレンジを3項目以上実施する。	B	B	平均2.5項目
		(海洋技術コース) 土木技能・救急法研修の実施	① 造船や海洋土木等の企業見学、研修を通じて、技能向上や安全確保に関する研鑽を深める。 ② 日本赤十字社救急法救助員講習を受講し、ガイドライン2010を含めた最新の救急処置法を習得する。	B C	B	・外部講師を招いて校内での特別教育と研修を実施した。 ・校内でのガイドライン研修を実施した。
	国際 教育	国際交流学習により国際理 解の育成を図る。	地元(宮津・与謝)での国際交流活動について理解を深めるため、生徒・保護者・教員講演会を実施する。	A	A	・生徒教職員ともに有意義な内容で好評を得た。
次年度への 改善の方向性	1 魅力ある教育活動を展開・発信し、本校、志願者数の増加を図る。 2 「学力向上フロンティア校」として、キャリア教育を踏まえた学びの仕掛けづくりを行い、「質の高い学力」を育む。 3 海洋高校ならではの魅力や特色を生かした生徒の希望進路実現を組織的に支援する。 4 人権意識を基盤として、規範意識や人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性や社会性を育む活動を推進する。 5 生徒全員の進級・卒業をめざし、教育相談機能や組織的指導力を高める取組を推進する。 6 事故・災害等に対する危機管理機能の向上並びに、安心・安全な教育環境を整備する。					